

“The promise for our future”

未来への約束

～京都与謝野のひとづくり、しごとづくり、まちづくり～



令和2年3月
与謝野町

CONTENTS

01 目次

02 はじめに

■人口減少・少子高齢化

■人口減少にどのように対応してきたか 第1期の総合戦略をふりかえって

03-06 第2期与謝野町ひと・しごと・まち創生総合戦略について

■基本的な考え方

■与謝野町の持続可能な循環型社会

■5つの基本目標

■戦略の実施期間

■総合戦略の名称について

■効果の検証

■5つの基本目標_体系図

07-09 基本目標1 与謝野を愛し、多様性を認め合いながら、新しいモノやコトを創出す

る地域人財をつくる ～よさの愛あふれる“よさの^{ひと}”の育成、活躍、そして、チャレンジを応援～

(ア) 地域で育む地域人財の育成 (イ) チャレンジできる担い手育成 (ウ) 共感でつながる人の輪づくり

10-13 基本目標2 たすけあう地域ぐるみの出産・子育てを実現 ～子育てするならこのまちで～

(ア) 切れ目のない妊娠・出産・子育て支援 (イ) 保育サービスの充実 (ウ) 地域における子育て支援

(エ) 子育て家庭にやさしい環境の整備

14-18 基本目標3 持続可能な与謝野の産業をつくる ～与謝野町中小企業振興基本条例を核とし

た地域企業の育成～

(ア) 地域企業の継続的な生産・経営基盤の確立 (イ) 産業人財の確保・育成 (ウ) 地域経済循環の確立

(エ) 情報発信と地域資源発掘 (オ) 持続的経済を目指す調査研究

19-21 基本目標4 まちへの人の流れをつくる ～人と仕事の魅力で、交わる、関わる、集うまち～

(ア) まちなかの魅力発見、掘起し、そして共感 (イ) よさの暮らしをイメージする体験型交流の推進

(ウ) 移住定住支援の強化

22-25 基本目標5 地域と地域が連携し、持続可能なまちをつくる ～新しい時代の流れを力に、

つながり助け合って、安心・元気な暮らしを実現～

(ア) 地域住民による地域づくりの推進 (イ) 誰もが暮らしやすい生活環境の整備

(ウ) 京都市北部広域連携事業の推進、自治体間交流 (エ) 豊かな自然環境の維持と活用

<はじめに>

■人口減少・少子高齢化

わが国における人口は、2008 年をピークに減少し始めており、また総人口に占める高齢者人口の割合（高齢化率）は 2018 年時点で 28.1%と過去最高を記録、年間出生数の減少も続いているなど、人口減少・少子高齢化が進行しています。

与謝野町では、2015 年国勢調査人口 21,834 人、高齢化率 34.4%で、2010 年国勢調査から比べると、人口は 1,620 人の減、高齢化率は 4.5 ポイントの増となっています。戦後第 2 次ベビーブーム（1971～1975 年）期をピークに減少に転じて以降、1990 年には年少人口（0～14 歳）が老年人口（65 歳以上）を下回るなど、人口減少・少子高齢化傾向が続いています。

人口減少の原因は、出生数より死亡数が多いこと（自然減）と、転入数より転出数が多いこと（社会減）の二つです。本町では、この二つの原因により、近年は毎年約 300 人の人口が減少する傾向となっている実態があります。若年層が少なく年齢の大きい年代に偏る人口構造となっている現状において、出生率が上がり子どもの数が増えてもそれ以上に死亡数が多いこと、さらに進学や就職等によると考えられる若者の人口流出は止まらず、転出傾向が続いている現状においては、自然減と社会減の解消は難しいと言えます。

そのような状況下における本町の地域経済は、基幹産業の一つである織物業については、1973 年をピークに生産量・織物事業者数は減少の一途をたどり、また、農業についても農業者の高齢化と担い手不足が深刻な状況となっています。

■人口減少にどのように対応してきたか 第 1 期の総合戦略をふりかえって

与謝野町においては、人口減少を出来る限り抑制し 2060 年以降に「16,000 人」前後で人口が落ち着く「おおむね人口維持」を長期的目標として掲げながら、人口減少問題の克服のために「与謝野町ひと・しごと・まち創生総合戦略¹」を策定しました。

「織りなす人をつくる」

「創造的にものをつくる、しごとをつくる」

「まちへの人の流れをつくる」

「地域と地域が連携し持続可能なまち²をつくる」

を 4 つの基本目標とし、この町でイキイキと働き・共に学び育ち、そしてワクワクするような活動が行われ、キラリと光る人や地域資源がある。そして、その魅力に人が集まる。縮小する社会にあっても、ここに住む人やこの地域が輝き「老若男女がイキイキする与謝野(まち)」であり続けることを目指して取り組んできました。様々な取り組みによりその成果の芽が出つつありますが、人口減少問題の克服に向けては長期的継続的に取り組んでいく必要があります。

¹ 与謝野町ひと・しごと・まち創生総合戦略：平成 27 年 12 月策定。戦略の実施期間は平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間。

² 持続可能なまち：地球環境や自然環境が適切に保全され、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすようなまちづくりが行われている社会。

<第 2 期与謝野町ひと・しごと・まち創生総合戦略について>

第 2 期においては、関係人口³の創出や、AI⁴・IoT⁵などの未来技術の活用、SDGs の理念にも沿った「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のあるやさしい社会、様々な主体による協働社会・共助社会づくりといった視点をより重視し、第 1 期に引き続き、本町の人口ビジョンで掲げている「2060 年以降に 16,000 人前後で落ちつくおおむね人口維持」を目標に、縮小する社会にあっても、ここに住む人やこの地域が輝き「老若男女がイキイキする与謝野(まち)」づくりを推進していきます。

■ 基本的な考え方

本町では、次の基本的な考え方によりこの総合戦略の取り組みを進めます。

- (1) 常識にとらわれず、チャレンジする姿勢を大事にします
- (2) 多様な価値観を尊重します
- (3) 民間の力を最大限発揮します
- (4) 持続可能な開発目標 (SDGs) を原動力とした地方創生を推進します



「持続可能な開発目標 (SDGs)」は、2015 年 9 月に国連で採択された「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030 年を年限とする 17 の国際目標。「みんなのための・みんなで支える」目標として、与謝野町では何ができるかを考え、あらゆる施策において SDGs の理念を踏まえ、取り組んでいきます。

³ 関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。

⁴ AI：人工知能。言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピューターに行わせる技術。

⁵ IoT：モノのインターネット。様々な「モノ（物）」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組み。

■ 与謝野町の持続可能な循環型社会

与謝野町の産業を育み、暮らしを支えているのは、大江山連峰から野田川、阿蘇海へとつながる肥沃で豊かな自然環境です。

まちや地域に対する愛情（よさの愛）を持った「ひとづくり」に力を入れながら、この豊かな自然環境を守り、そして、安心安全で恵まれた地域資源を活かし、自発的な挑戦と連携によるさまざまな価値が創出される環境を整え、よさの愛にあふれたキラリと光る人財による基幹産業の農業、織物業を中心とした「しごとづくり」と、限りある地域の資源（ヒト・モノ・カネ）をできるだけ地域の中で最大限に活用する「まちづくり」 — 与謝野で「育ち、学び、働き、暮らす」ことができる持続可能な循環型社会⁶ を創り上げ、次の世代にまちをつないでいきます。

■ 5つの基本目標

本町では高校卒業後の若年層の転出超過が人口減少の最大の原因となっています。若者が町内へ帰ってくる、あるいは訪れる仕組みづくりが重要な視点であることを踏まえ、第1期に引き続き、まちや地域に対する愛情（よさの愛）を持った「ひとづくり」を最重要目標とし、よさの愛にあふれたキラリと光る人財による「しごとづくり」「まちづくり」を推進していくため、5つの基本目標を柱に第2期与謝野町ひと・しごと・まち創生総合戦略をまとめました。

基本目標 1	与謝野を愛し、多様性を認め合いながら、新しいモノやコトを創出する地域人財をつくる ～よさの愛あふれる“よさの ^{ひと} 人”の育成、活躍、そして、チャレンジを応援～
基本目標 2	たすけあう地域ぐるみの出産・子育てを実現 ～子育てするならこのまちで～
基本目標 3	持続可能な与謝野の産業をつくる ～与謝野町中小企業振興基本条例を核とした地域企業の育成～
基本目標 4	まちへの人の流れをつくる ～人と仕事の魅力で、交わる、関わる、集うまち～
基本目標 5	地域と地域が連携し、持続可能なまちをつくる ～新しい時代の流れを力に、つながり助け合って、安心・元気な暮らしを実現～

⁶ 循環型社会：限りある資源を効率的に利用するとともに、再生産を行って、持続可能な形で循環させながら利用していく社会。

■ 総合戦略の名称について

名称については、一人でも多くの町民に分かりやすく伝え、「自分たちが主役である」と捉えてもらいたいという思いを含め、現在の与謝野町、与謝野町民だけでなく、未来の与謝野町、与謝野町民への約束であるという第1期の思いを引き継ぎ、「未来への約束 “The promise for our future” ～京都与謝野のひとづくり、しごとづくり、まちづくり～」としました。

■ 戦略の実施期間 令和2年度から令和6年度までの5年間

■ 効果の検証

基本目標それぞれに実現すべき成果に係る指標を設定するとともに、具体的な施策についても効果を客観的に検証できる指標（重要業績評価指標（KPI）⁷）を設定しました。これらの指標により総合戦略の進捗を毎年度確認、またその効果・成果を評価・検証し、必要に応じて総合戦略を見直すこととします。

⁷ 重要業績評価指標（KPI）：組織の目標達成度を評価するための最も重要な指標。

■ 5つの基本目標_体系図

まちや地域に対する愛情（よさの愛）



1 与謝野を愛し、多様性を認め合いながら、新しいモノやコトを創出する地域人財をつくる

- (ア) 地域で育む地域人財の育成
- (イ) チャレンジできる担い手育成
- (ウ) 共感でつながる人の輪づくり

ひと
～よさの愛あふれる“よさの人”の育成、活躍、そして、チャレンジを応援～



2 たすけあう地域ぐるみの出産・子育てを実現

- (ア) 切れ目のない妊娠・出産・子育て支援
- (イ) 保育サービスの充実
- (ウ) 地域における子育て支援
- (エ) 子育て家庭にやさしい環境の整備

～子育てするならこのまちで～



3 持続可能な与謝野の産業をつくる

～与謝野町中小企業振興基本条例を核とした地域企業の育成～

- (ア) 地域企業の継続的な生産・経営基盤の確立
- (イ) 産業人財の確保・育成
- (ウ) 地域経済循環の確立
- (エ) 地域資源の情報発信と関係人口の拡大
- (オ) 持続的経済を目指す調査研究



4 まちへの人の流れをつくる

～人と仕事の魅力で、交わる、関わる、集うまち～

- (ア) まちなかの魅力発見、掘起し、そして共感
- (イ) よさの暮らしをイメージする体験型交流の推進
- (ウ) 移住定住支援の強化



5 地域と地域が連携し、持続可能なまちをつくる

～新しい時代の流れを力に、つながり助け合って、安心・元気な暮らしを実現～

- (ア) 地域住民による地域づくりの推進
- (イ) 誰もが暮らしやすい生活環境の整備
- (ウ) 京都府北部広域連携事業の推進、自治体間交流
- (エ) 豊かな自然環境の維持と活用



※基本目標の基本的方向について、主だった持続可能な開発目標（SDGs）の17のゴールのアイコンで示しています。

基本目標 1 与謝野を愛し、多様性を認め合いながら、新しいモノやコトを創出する地域人財をつくる

～よさの愛あふれる“よさの^{ひと}人”の育成、活躍、そして、チャレンジを応援～

与謝野町の豊かな自然と歴史によって育まれた伝統・文化、そして知恵と技術を活かし、多様性を認め、地域の課題に取り組む人財、新しい価値を生み出し地域に活力を注ぐ人財、郷土愛にあふれ地域に貢献する人財の育成を推進します。

■現状と課題

人口減少・少子高齢化に歯止めがかからず、地域への関わりや想いが希薄化しつつある中、持続可能なまちづくりを進める上で、自分事として考え行動する地域人財の育成や地域資源を活かした新たな価値を創出する人財の育成、グローバルな視点で地域経済・社会づくりを担うグローカル⁸人財の育成など個々のマンパワーを増やす「人口減でも人財増」をさらに目指すこと、それぞれの人財が様々な形で効果的につながることが重要です。

また、未来を担う子どもたちが与謝野町に住み続けたい、そして関係を持ち続けたいと思えるふさと教育の推進が重要です。

■基本的方向

- まちや地域に対する愛情（よさの愛）にあふれ、地域課題を自分事として考え、行動し、新しいモノやコト（価値）づくりにチャレンジする地域人財（“よさの^{ひと}人”）、伝統を継承しつつ知恵や技・経験を活かして未来を担う地域人財（“よさの^{ひと}人”）の育成に取り組みます。
- 子どもから大人まで、自分たちの強みを知り、多様性を認め合い、新しいモノやコト（価値）への共感・理解できる人財を育成します。また、新しいモノやコト（価値）づくりを支える・応援する人財、また、人と人、地域と地域、人と地域をつなぐ人財を育成します。
- みんなが地域で活躍し、新たなチャレンジや活動の輪が広がっていくために、みんなで応援・支援できる環境づくりを進めます。また、多様なアイデアや情報を共有し、新たなチャレンジや地域活動を応援します。

数値目標	基準値	目標値
地域人財育成プログラムの参加者数	898 人 (H30 年度)	2,380 人 (R6 年度までの累計)

⁸ グローカル:グローバル（地球規模の、世界規模の）とローカル（地方の、地域的な）を掛け合わせた造語で、「地球規模の視野で考え、地域視点で行動する」という考え方。

■ 具体的施策と重要業績評価指標（K P I）

（ア）地域で育む地域人財の育成

① まちなかまるごとキャンパス

このまちの人が好き。暮らしが好き。自然や伝統文化が好き。子どもから大人まで、与謝野町で共に教え合い、学び合い、交流できる場づくりを進めます。

② ふるさと教育

地域とこども園、幼稚園、保育所（園）、学校がつながり、未就学児（認定こども園、幼稚園、保育所（園））・小学生・中学生・高校生に対し、地域の人が講師となって実施する出前教室、体験講座などを通じ、よさの愛を育むふるさと教育を推進します。また、地域ぐるみで地域の風習や行事、祭りを伝承します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
よさのみらい大学参加者数	750 人 (H30 年度)	1,950 人 (R6 年度までの累計)
生涯学習講座、公民館講座等開催回数	912 回 (H30 年度)	1,987 回 (R6 年度までの累計)
出前教室、体験講座等の実施回数	308 回 (H30 年度)	740 回 (R6 年度までの累計)

（イ）チャレンジできる担い手育成

① 多様なつながりとチャレンジを応援する学びの場づくり

保幼小中高大それぞれのステージがつながり、子どもたちの主体的な実践を応援する環境を構築することで、将来にわたって地域と関わり、地域に貢献できるチャレンジングな次世代人財を育成します。

② 知恵・技・経験・伝統を継承する次世代育成

与謝野町の地域経済・暮らしの歴史やこれまでの培われてきた知恵・技・伝統を知るとともに、地域資源を活かした新たな価値を創出する次世代の育成に取り組みます。

③ グローカル人財の育成

与謝野町とゆかりのある外国との相互人財交流や大学留学等により、多様性を認め国際感覚を磨きグローバルな視点で地域経済・社会（ローカル）づくりを担うグローバル人財を育成します。

また、外国語指導助手及び国際交流団体等による外国語の学習や外国文化に対する理解を深める取り組みを推進します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
保幼小中高大の多彩な相互組み合わせによる連携・交流取組数	15 件 (H30 年度)	80 件 (R6 年度までの累計)
キャリア講座や職場体験等の実施校数	11 校 (H30 年度)	56 校 (R6 年度までの累計)
国際交流プログラム参加者数	77 人 (H30 年度)	270 人 (R6 年度までの累計)
外国語指導助手等による外国文化等の発信	42 回 (H30 年度)	222 回 (R6 年度までの累計)

（ウ）共感でつながる人の輪づくり

地域課題を自分事として考え、地域で解決していくために、地域や世代、立場を超えて連携するとともに、若者・女性・障害者・高齢者など多様な人々の地域活動等への参画を促進し、様々な主体によるまちづくりを推進します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
若者*・女性の区役員**数 *40 歳未満、**区三役（区長、副区長、会計）	1 人 (R1 年)	24 人 各自治会 1 名以上目指す (R6 年)
審議会等への女性の登用率	27.1% (H30 年度)	30.0% (R6 年度)
障害者雇用の事業所数 (京都はあとふる企業認証企業数)	4 事業所 (R1*年) *R1.9.6 現在	10 事業所 (R6 年)
農福連携による障害者雇用者数	26 人 (R1 年)	28 人 (R6 年)
シルバー人材センター登録者数	170 人 (H30 年度)	190 人 (R6 年度)

基本目標 2

たすけあう地域ぐるみの出産・子育てを実現

～子育てするならこのまちで～

豊かな自然に恵まれた与謝野町で、地域・住民との協働により誰もが安心して子どもを産み育てられる地域社会、すべての子どもが良質な教育・保育を受けられ、健やかな成長が保障される環境づくりを推進します。

■現状と課題

家族構成の多様化、共働き世帯の増加、育児や介護と仕事の両立など、家族が互いに協力しながら家庭生活を送ることが難しくなりつつある昨今において、家族や地域がお互いに協力し助け合える関係、多様なライフスタイルが可能となる社会の実現を目指し、このまちで安心して妊娠・出産・子育てできる環境を整備することが必要です。

■基本的方向

- 多様なライフスタイルや希望に沿った妊娠・出産・子育てが実現できるよう、妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援を推進します。
- 子どもはまちの宝です。みんなの愛情を感じながら健やかに成長できるよう、保護者・家族・地域がお互いに助け合いながら地域ぐるみで子どもを育てる意識を高め、様々な担い手の協働による子育て支援を推進します。

数値目標	基準値	目標値
年間出生数 / 期間合計特殊出生率	105 人/1.36 (H30 年度)	134 人/1.71 (R6 年度)
18 歳以下の子を持つ世帯数の割合	19.7% (H30 年度)	20.0% (R6 年度)
この地域で子育てをしたいと思う親の割合	94.0% (H30 年度)	100% (R6 年度)

■ 具体的施策と重要業績評価指標（K P I）

（ア）切れ目のない妊娠・出産・子育て支援

①子どもや母親の健康の確保

妊娠期、出産期、新生児期及び乳幼児期を通じて母子の健康が確保され、地域で安心して子育てができるよう、産後ケア事業をはじめ妊産婦・乳幼児に関する切れ目のない保健対策の充実を図り、乳幼児健診、新生児訪問、離乳食教室等の母子保健における健康診査、訪問指導、保健指導等の充実努めます。また、発達障害への支援の充実を図ります。

②小児医療の充実

安心して子どもを生み、健やかに育てることができるよう、小児医療の充実・確保に取り組めます。特に、安心して「いいお産」ができるよう地域医療体制の確保・連携を図ります。

③食育の推進

乳幼児期からの正しい食事の摂り方や望ましい食習慣の定着及び食を通じた豊かな人間性の形成・家族関係づくりによる心身の健全育成を図ります。また、妊娠前からの適切な食生活の重要性を含め、妊産婦等を対象とした食に関する学習の機会や情報提供を進めます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
離乳食教室等の参加率	73.5% (H30 年度)	95.0% (R6 年度)
乳幼児健診への参加率	97.2% (H30 年度)	98.0% (R6 年度)
京都府北部 5 市 2 町 ⁹ 内における産婦人科数の維持	14 <9> 箇所 (H30 年度)	14 <9> 箇所 (R6 年度)

※ <9> 内はお産を取り扱う医療機関数

（イ）保育サービスの充実

①多様な保育ニーズに柔軟に対応できる環境整備

子育て家庭と地域との交流を促し、地域とのつながりによって安心して子育てができるよう、豊かな自然環境を活かした地域コミュニティ拠点の役割をも果たす幼保連携型認定こども園の計画的な施設整備を実施します。

⁹ 京都府北部 5 市 2 町：福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町。

②希望に応じた保育サービスの充実

多様な就労状況や家庭環境にあっても、希望に応じた保育サービスが受けられるよう、標準保育時間の他に、早朝の時間外保育の実施、病児保育の実施など保育サービスの質の向上に努めます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
利用している教育・保育に対する満足度	86.3% (H30 年度)	86.3%以上 (R6 年度)

（ウ）地域における子育て支援

①子育て支援サービスの充実

母子保健と子育ての一体的な総合相談窓口として子育て世代包括支援センターの体制強化を図ります。また、町内 3 か所の地域子育て支援センターを運営し、地域の身近なところで子育ての情報を入手したり、相談できる機会や場をつくり、子育てに関する不安や悩みの解決を図りながら、社会全体で子育てを支援していきます。

②子育て支援の輪づくり

子育てを取り巻くさまざまな相談に対応するため、関係機関との連携の充実を図り、子育て中の孤立や、いじめ・不登校・進学・児童虐待等に対応します。また、地域の公共施設、空き店舗・空き家等多様な地域資源の活用を図りながら、子どもの健全育成のための安全・安心な居場所づくり、多世代での交流や集いの場づくりに努めます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
未就園児の子育て支援センター利用率	30.6% (H30 年度)	50.0% (R6 年度)
教育相談等の窓口設置数	1 箇所 (R1 年度)	1 箇所 (R6 年度)
放課後児童クラブの実施校区率	100% (R1 年度)	100% (R6 年度)

(エ) 子育て家庭にやさしい環境の整備

① 仕事と生活の調和¹⁰の実現

仕事と子育て・介護との両立ができる環境の整備、地域活動等への参加がしやすい環境づくりを進めるために、社会全体の意識の向上を図ります。

② 良好な居住環境の整備

子どもや子育て家庭が地域社会で安心して生活できるよう、子育て世帯向けの住宅供給支援に努めます。

③ 安全・安心なまちづくりの推進

事故の危険性の高い通学路などにおいて、歩道等の整備、安全・安心な歩行空間の整備、公園等の公共施設等について安全面での点検・整備に努め、子どもが事故等の被害に遭わないようなまちづくりを進めます。また、地域と連携しながら安全確保対策に取り組みます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
特定目的優先の公共住宅戸数	3 戸 (R1 年度)	3 戸 (R6 年度)
地域見守り活動従事団体数	13 団体 (H30 年度)	13 団体 (R6 年度)

¹⁰ 仕事と生活の調和：ワーク・ライフ・バランス。やりがいのある仕事との充実した私生活を両立させるという考え方。

基本目標 3

持続可能な与謝野の産業をつくる

～与謝野町中小企業振興基本条例を核とした地域企業の育成～

町内の多様な業種・地域企業の活力と魅力ある地域資源を活かした産業間・企業間等連携を図り、地域企業のさらなる活力と価値を高め続けられる「持続可能な与謝野の産業育成」を推進します。

■ 現状と課題

与謝野町の産業施策の展開や地域資源の魅力を活用した地域ブランドの確立・推進をしていくためには、産業間や関係機関等との情報共有・連携が重要です。併せて、しごと創出・雇用創出については、プロモーションの強化、事業承継、後継者育成、技術伝承などさまざまなステージの課題を解決するための一体的なマネジメント体制・情報発信体制の構築が必要です。

また、与謝野町中小企業振興基本条例を核とした地域企業の発展や産業人財の確保・育成、多様な産業間・業種間連携による新しい価値の創造など、与謝野町ならではの持続可能で元気な産業施策の展開が求められています。

■ 基本的方向

- 与謝野町中小企業振興基本条例を推進します。
- 地域企業の持続的な発展を支援します。
- 産業人財の確保・育成を支援します。
- 地域循環型経済の確立を推進します。
- 地域資源や地域企業の情報発信を行います。

数値目標	基準値	目標値
新規創業件数	28 件 (R1 年度)	48 件 (R6 年度までの累計)
新規就農者数	40 人 (H30 年度)	49 人 (R6 年度までの累計)
町内企業等従業者数減少の抑制	7,658 人 (H28 年:就業者率 60.7%)	6,750 人に留める (R6 年:就業者率 65%目標)
優良農地の確保	777ha (R1 年度)	777ha (R6 年度)

■ 具体的施策と重要業績評価指標（K P I）

（ア）地域企業の継続的な生産・経営基盤の確立

① 地域企業の育成

地域とともに歩み、地域の暮らしを支える企業が、自社の魅力・価値を認識し、地域を元気にする、地域で活躍する地域企業の育成を図り、働きがいや生きがいを感じられる環境づくりを推進します。

② チャレンジ喚起

多様な産業・業種等が交流できる場を設け、新たな価値・アイデアの創出、起業・第二創業¹¹などへのチャレンジを喚起します。

③ 企業誘致の推進

産官学民の空き施設等を活用した企業誘致を推進します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
町内事業所数減少の抑制	1,544 事業所 (H28 年)	1,400 事業所に留める (R6 年: 減少率 10%以内)
経営支援計画書の策定企業数	260 社 (R1 年度)	360 社 (R6 年度までの累計)
設備投資会社数	88 社 (R1 年度)	188 社 (R6 年度までの累計)
創業ゼミ参加者数	36 人 (R1 年度)	61 人 (R6 年度までの累計)
創業・第二創業・事業承継の件数	37 件 (R1 年度)	62 件 (R6 年度までの累計)
企業誘致で創業した企業数	2 社 (R1 年度)	7 社 (R6 年度までの累計)

¹¹ 第二創業：後継者が先代から事業を引き継いだ後に業態転換や新事業を起こすことにより、更なる事業拡大を目指すこと。

（イ）産業人財の確保・育成

与謝野町内で活躍する地域企業の強みを教育やイベントで体感できる環境づくりを進めるとともに地域企業の魅力を情報発信できる体制を整えて、多様な産業人財の確保・育成を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
人財育成セミナーの参加者数	49 人 (R1 年度)	99 人 (R6 年度までの累計)
京力農場プラン ¹² 策定件数	13 件 (R1 年度)	18 件 (R6 年度までの累計)
丹後就職フェア等就職活動に参加した企業数	21 社 (R1 年度)	71 社 (R6 年度までの累計)
企業 PR イベントに参加した企業数	33 社 (R1 年度)	208 社 (R6 年度までの累計)

（ウ）地域経済循環の確立

①基幹産業の振興

与謝野町の産業は山・川・海が連なる恵まれた自然環境のもと息づいています。京の豆っこ米をはじめとする自然循環農業やスマート農業¹³等に挑戦し続ける農業、丹後ちりめん¹⁴に代表される絹織物の製造生産で培ってきた高い技術力を持つ織物業など、与謝野町ならではの価値を活かした地域の基幹産業の振興を図ります。

②産業間連携の推進

商業、工業、農林業、観光、福祉、健康、医療、教育、環境等の様々な産業間連携を図り、新たな価値の創出と地域産業発展の可能性を広げます。

③産業イノベーション¹⁴の促進

未来技術を積極的に導入・活用し、多様な掛け合わせ・産業間連携による産業イノベーションを促します。

¹² 京力農場プラン：人・農地プラン。地域の「人と農地」の課題を解決するため、話し合いにより作成する将来の設計図。今後の中心となる農業者や地域の担い手、農地利用のあり方を明確にしたもの。

¹³ スマート農業：ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業のこと。

¹⁴ イノベーション：新製品の開発、新組織の形成などによって、経済発展や景気循環がもたらされるとする概念。狭義には技術革新の意に用いられる。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
織物事業所数減少の抑制	337 事業所 (R1 年度)	230 事業所に留める (R6 年度:毎年減少率 10%以内)
京の豆っこの生産量・京の豆っこ米 の生産面積	287 t・138ha (H30 年度)	334 t・160ha (R6 年度)
地域資源を活用した肥料の開発数	1 件 (R1 年度)	3 件 (R6 年度までの累計)
e-kakash ¹⁵ 導入件数	15 件 (R1 年度)	15 件 (R6 年度)
産業間連携で生まれた商品数	11 件 (R1 年度)	26 件 (R6 年度までの累計)
地域特性を活かした新たな商品開 発数	19 件 (R1 年度)	34 件 (R6 年度までの累計)
先端設備等導入計画 ¹⁶ の認定数	13 件 (R1 年度)	28 件 (R6 年度までの累計)

（エ）地域資源の情報発信と関係人口の拡大

与謝野町の人・産品など地域資源の魅力を発信します。併せて「町の変化を生み出す」人財を確保するために地域や企業と多様に関わる人財の獲得・確保を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
ホームページ等による地域資源の魅力 発信	50 件 (R1 年度)	100 件 (R6 年度までの累計)
地域の産業や仕事の体験イベント等へ の参加者数（年間）	5,475 人/年 (R1 年度)	8,000 人/年 (R6 年度)
農家データベースへの登録件数	0 件 (R1 年度)	30 件 (R6 年度までの累計)

¹⁵ e-kakash¹⁵：圃場に設置し各種センサーを取り付けて環境を計測する端末。圃場で取得した大量の栽培・環境データを見える化することにより、ベテラン農家の栽培技術を新規参入者へ効率的に継承するサービス。

¹⁶ 先端設備等導入計画：生産性向上特別措置法において措置された、中小企業・小規模事業者等が設備投資を通じて労働生産性の向上を図るための計画。計画の認定を受けた場合は、税制支援や金融支援などの支援措置を活用することができる。

（オ）持続的経済を目指す調査研究

産・官・学・民が連携し、地域企業の実態、産業連関表¹⁷、買い物調査などを基に持続可能な与謝野の産業について調査研究を行います。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
調査研究会議の開催数	0回 (R1 年度)	5回 (R6 年度までの累計)

¹⁷ 産業連関表：産業ごとの生産・販売等の取引額を行列形式にした指標で、ある地域における1年間に、産業（企業）、政府、家計などの経済主体が行った、財貨（モノ）・サービスに関する取引を一覧表にまとめたもの。

基本目標 4

まちへの人の流れをつくる

～人と仕事の魅力で、交わる、関わる、集うまち～

地域資源の発掘・発信・活用により、地域の魅力と認知度のさらなる向上を図り、まちの特色や環境、人の魅力で「交流が生まれ、関係を持ち、与謝野町に集う」ゆるやかな流れをつくるとともに、民間の力を活かした力強い流れの創出を図ります。

■現状と課題

地域の魅力が日々の暮らしの中に溶け込んでいる与謝野町では、自然景観や産業、人などの地域資源を活かした体験プログラムによる人の流れ、与謝野町観光協会（海の京都DMO¹⁸与謝野地域本部）を中心とした地域住民、住民団体との連携によるさらなる地域の魅力向上が必要です。さらに、移住希望者が与謝野町を移住先候補の一つとして選択する認知度の向上を図り、まちの特色や環境、人の魅力で惹きつけられる情報発信を強化するとともに、各地区や各種団体、企業等と緊密な連携を図り、与謝野町全体で移住者を積極的に受け入れるという気運を醸成する必要があります。

また、若手人財が途切れることなく町内へ帰ってくる、あるいは訪れる仕組みづくりを構築し、大学生（大学含む）や若者の持つ知性・感性・創造性などをまちづくりのエッセンスにした地域の活性化を促し、関係人口、移住定住の他、与謝野町の産業における人財確保の観点からも、民間の吸引力による展開を図ることが重要です。

■基本的方向

- まちや地域の魅力を掘り起こし、町内外へまちの魅力情報を発信し、与謝野町のファンづくりを推進します。
- 与謝野町を訪れる人々が山・川・里・海をフィールドに与謝野の歴史・文化や暮らしを体験し、地域との交流を促進します。また、京都府北部5市2町による海の京都観光圏の取り組みを活かしつつ、本町の強みを活かした独自の政策・施策・事業の展開と民間が自走するまちづくり観光を推進し、多様な人財を呼び込み交流人口・関係人口づくりを推進します。
- このまちで暮らしたいと思う人が安心して移り住める環境を整備し、まちぐるみで移住を支援します。また、住み続けたいと思えるフォローアップ支援により、地域での豊かな暮らしの実現を目指します。

数値目標	基準値	目標値
京都府北部5市2町以外からの転入数（年間）	243人/年 （H31年3月31日）	250人/年 （R7年3月31日）
与謝野町に住み続けたいと思う人の割合	67.6% （R1年度）	67.6%以上 （R6年度）

¹⁸ DMO：Destination Management/Marketing Organizationの略称。観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域づくりを行う法人。

観光入込客数（年間）	430 千人/年 （H30 年）	574 千人/年 （R6 年）
観光消費額（年間）	5.7 億円/年 （H30 年）	7.6 億円/年 （R6 年）

■ 具体的施策と重要業績評価指標（K P I）

（ア）まちなかの魅力発見、掘起し、そして共感

①情報発信力の向上と地域プロモーションの推進

海の京都エリアにおける 5 市 2 町の連携をさらに深めるとともに、本町の資源をあらゆる視点から見つめ直し、地域内外から選好される地域となるために、ホームページや SNS 等を活用した情報発信、地域プロモーションを推進します。

②公共施設や空き家・空き店舗等を活用した場づくり

移住を希望する人やコトやモノづくりにチャレンジしようとする人が空き家・空き店舗・空き地等を活用できるよう、空き家等物件を把握し移住促進体制を構築し、多様な価値観や技術・感性等の出会いと交流による新たな価値の創出を促進します。

③あなたのふるさと応援、地域の担い手づくり

与謝野町に関心やゆかりのある人や企業等からの応援によって、地域の活性化、地域課題の解決に向け取り組み、まちや地域の魅力向上を図るとともに、「離れていても地域の担い手」づくりに取り組みます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
町関連 SNS いいね！数	5,243 いいね！ （R1 年）	10,000 いいね！ （R6 年度までの累計）
与謝野町産業創出交流センター利用件数	300 件 （H30 年度）	2,370 件 （R6 年度までの累計）
空き家（空き家バンク登録物件）成約件数	1 件 （H30 年度）	10 件 （R6 年度までの累計）
ふるさと納税件数	838 件 （H30 年度）	5,838 件 （R6 年度までの累計）

（イ）よさの暮らしをイメージする体験型交流の推進

①体験・滞在型観光の促進

山・川・里・海での豊かな自然を活かした遊びや、地域の祭り・イベント等への参加、歴史や文化・地域産業を活かした体験など、与謝野町を訪れる人が魅力をゆっくり体験・体感できる観光を促進します。

②暮らし・なりわい体験お試し居住の推進

与謝野町での仕事や地域との関わりなど移住後の暮らしがイメージできる短期滞在型お試し居住を推進し、田舎暮らし・仕事体験の機会を創出します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
体験/滞在型コンテンツ数	6 件 (H30 年度)	11 件 (R6 年度までの累計)
体験観光プログラム参加者数（年間）	1,645 人/年 (H30 年度)	3,300 人/年 (R6 年度)
お試し住宅の設置	0 箇所 (H30 年度)	1 箇所 (R6 年度)
お試し居住世帯	0 世帯 (H30 年度)	5 世帯 (R6 年度までの累計)

（ウ）移住定住支援の強化

①Uターン・孫ターン¹⁹・子育てターン移住支援の強化

与謝野町で暮らしたい人や自然豊かな与謝野町で子育てをしたい人が、安心して暮せるための移住支援を強化します。

②移住相談、定住フォローアップ体制の構築

移住や定住に関する相談や、地域・行政・金融機関等との橋渡し役の存在は重要です。安心して新たな生活をスタートできるような企業等を含めた相談・フォローアップ体制を構築します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
移住促進特別区域への移住世帯数	2 世帯 (H30 年度)	7 世帯 (R6 年度までの累計)
移住等に関する民間による相談窓口の設置	0 箇所 (H30 年度)	1 箇所 (R6 年度)

¹⁹ 孫ターン：都会で生活する若い世代が、祖父母の暮らす地方に移り住むというかたちの移住。

基本目標 5

地域と地域が連携し、持続可能なまちをつくる

～新しい時代の流れを力に、つながり助け合って、安心・元気な暮らしを実現～

誰もが元気に安心して楽しく暮らし続けられる社会を目指し、地域を磨き、住民が輝き続けられる環境づくりを推進するとともに、多様な連携と共助によるまちづくりを推進します。また、新しい時代の流れを力にした地域の活力や生活の質の向上を図ります。

■現状と課題

ライフスタイルの多様化、住民の価値観の多様化により、同じ地域に住んでいても、地域の連帯感や共同意識の希薄化、加えて人口減少・少子高齢化の進行による自治体の運営・存続問題が課題としてクローズアップされてきました。各自治体の運営やコミュニティ活動等の支援を行いながら、持続可能な地域自治運営について、その必要性や危機感を共有し、気運の醸成を図ることが重要です。

また、海の京都圏内における様々な地域課題の解決にむけては、5市2町水平連携のもと、人口減少対策、移住定住施策、産業・雇用施策、観光施策、公共交通施策、安心安全な生活基盤の整備など、安心して暮らせるまちづくりを推進するとともに、海の京都圏域を超えた地域間・自治体間連携、交流を多角的に促進し、地域資源や地域素材を活かしたまちづくりの検討も必要です。

■基本的方向

- みんなが担い手・支え合う社会へ。それぞれの地域の住民が主体となって地域を磨き、住民が輝く地域をつくれます。「自分たちのまちは自分たちでつくる」という意識、「そして、守る」という覚悟を持ち、誰もが頼れる地域（近所）、助け合える環境をつくり、暮らしやすい地域づくりを推進します。
- 地域や世代、立場を超えて地域課題を考え、解決するために交わりつながる地域づくりを推進します。また、自治体連携、広域連携の視点、多様な民間の視点も重視した取り組みにより、与謝野町だけではなく、丹後地域の創生に取り組みます。
- 時代の変化に対応し、Society5.0²⁰の実現に向けたAI、IoTなどの未来技術の積極的な活用を図ります。
- SDGsの理念にも沿った持続可能で環境にやさしい社会づくりなど、新しい時代を見据えた未来がみえるまちの取組を推進します。

数値目標	基準値	目標値
隣組へ加入している世帯の割合	77.3% (H30年度)	80.0% (R6年度)

²⁰ Society5.0：サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。IoTで全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服したり、AI（人工知能）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されるなど、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人一人が快適に活躍できる社会。

自治会数	24 自治会 (R1 年度)	24 自治会 (R6 年度)
公共交通空白地区数	0 地区 (R1 年度)	0 地区 (R6 年度)

■ 具体的施策と重要業績評価指標（K P I）

（ア）地域住民による地域づくりの推進

①住み続けられる地域組織の構築

近所や地域でお互いの顔が見えるお付き合いから、互いに協力し助け合い頼り合える地域づくりを推進します。住み慣れた地域で誰もが安心安全に楽しく暮らし続けられるために、地域で抱える課題や問題を地域で共有し、人と人、地域と地域、人と地域をつなぎ、できることからできる人が始められる仕組みづくりを支援します。

②さまざまな地域活動の推進

町内すべての地区で人口減少・少子高齢化が進む中、生活サービス機能、地域活動等の維持確保や地域の魅力向上を図る取り組みを推進します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
地域運営組織 ²¹ の形成と持続的運営に向けた懇談や研修等の回数	2 回 (R1 年度)	7 回 (R6 年度までの累計)
課題解決に向けて地域の将来像について話し合いを進める自治会数	2 自治会 (R1 年度)	24 自治会 (R6 年度)

（イ）誰もが暮らしやすい生活環境の整備

①地域の実情に合った移動手段の確保

地域や住民のニーズに柔軟に対応できる生活交通の維持・確保を図るとともに、町内に点在するさまざまな拠点へのアクセス確保、利便性・回遊性の向上を図り、誰にも便利な交通ネットワークの充実を図ります。

²¹ 地域運営組織：地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々を中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取り組みを持続的に実践する組織。

②地域における Society5.0 の推進

わたしたちの暮らしや社会の中で、これまで制限・困難・負担・面倒・不便等と感じられていた課題について、AI,IoT などの未来技術の積極的な活用を図り、地域経済の活力や生活の質の向上を推進します。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
与謝野駅の利用者数（年間）	22,283 人/年 （H30 年度）	22,500 人/年 （R6 年度）
町内のバス路線数	7 路線 （R1 年度）	7 路線 （R6 年度）
AI,IoT などの未来技術の活用数	2 件 （R1 年度）	5 件 （R6 年度までの累計）

（ウ）京都府北部広域連携事業の推進、自治体間交流

①京都府北部地域連携都市圏²²連携事業の推進

京都府北部地域 5 市 2 町で形成している京都府北部地域連携都市圏の連携事業を推進し、水平連携による一体的な地域課題解決に向けて取り組み、地域産業の活性化と安定した雇用機会の創出、医療・福祉、教育、交通等の充実した質の高い居住環境、若者や子育て世代にも魅力ある生活環境の実現を図ります。

②都市交流・包括協定等による自治体間交流

地域の実情・特性や資源・文化等の相互理解を深め、お互いを補完し、それぞれの強みを活かすまちづくりを図るとともに、自治体間交流や連携から生まれる多角的な視点でのまちづくりや地域課題解決に取り組みます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値
京都府北部 5 市 2 町連携事業実施数	7 事業 （H30 年度）	11 事業 （R6 年度までの累計）

²² 京都府北部地域連携都市圏：構成自治体は、福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町。京都府北部地域で一つの経済・生活圏の形成、持続可能な価値社会の形成を図る 30 万人連携都市を目指す。

(工) 豊かな自然環境の維持と活用

わたしたち住民の宝である豊かな自然－山・川・里、そして海。その豊かな自然環境から生み出される産業や暮らし。恵まれたこれらの環境資源を守り未来へつなぐために、SDGs の理念に沿った資源の有効活用や社会にやさしい環境づくりを推進します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
SDGs の理念に沿った環境にかかる取り組み数	5 件 (H30 年度)	10 件 (R6 年度までの累計)
新ごみ処理施設の <u>クリーンエネルギー</u> ²³ 発电量	0MWh/年 (R1 年度)	1,294MWh/年 (R6 年度)
<u>田んぼダム</u> ²⁴ 取組面積	0ha (R1 年度)	1ha (R6 年度)
野田川の <u>BOD 値</u> ²⁵	堂谷橋 : <u>ND</u> ²⁶ 大江山橋 : ND 三村橋 : ND 岩滝橋 : ND (R1 年度)	ND ND ND ND (R6 年度)

²³ クリーンエネルギー：電気や熱などに変える際、二酸化炭素（CO2）や窒素酸化物（NOx）などの有害物質を排出しない、または排出量の少ないエネルギー源のこと。自然エネルギーや再生可能エネルギーともいう。

²⁴ 田んぼダム：水田が持っている洪水緩和機能を人為的に高めることで大雨が降った時に雨水を水田に一時的に貯留し、水田からのピーク流出量を抑制して田んぼダム下流の農耕地や住宅地の洪水被害を軽減する目的で実施するもの。

²⁵ BOD 値：生物化学的酸素要求量。水質指標の一つで、水中の有機物などの量をその酸化分解のために微生物が必要とする酸素量で表したもの。一般に、BOD の値が大きいほど、水質は悪いと言える。

²⁶ ND：Not Detected（不検出）。ここでは定量下限値（0.5mg/l）未満。

第2期 与謝野町ひと・しごと・まち創生総合戦略

発 行／与謝野町

発行年月／令和2年（2020年）3月

編 集／企画財政課

〒629-2292 京都府与謝郡与謝野町字岩滝 1798 番地 1

TEL 0772-43-9015（直通）

FAX 0772-46-2851

E-mail kikakuzaisei@town.yosano.lg.jp
